

公益財団法人茨城県国際交流協会

事業名	国際理解教育推進及び茨城県留学生親善大使交流事業			
実施期間	2013年5月～2014年1月			
場 所	茨城県内小中高等学校及び生涯学習施設等			
参加者	外国人留学生	地域住民・企業等	その他	合計
	223 名	8771 名	名	8994 名

<実施内容>

公益財団法人茨城県国際交流協会では、当協会の他、関係8団体と茨城県国際理解教育推進協議会を組織し、連携してワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業を展開しています。県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、生涯学習関連機関等に留学生等の外国人講師を派遣し、参加者が様々な国の習慣や文化を知り、国際理解を深める機会を提供しています。



インドネシアの紹介をするネランダさん

今年度は、87団体103件の派遣を行う予定です(1月31日現在76団体90件派遣済み)。このワールドキャラバンでは、講師は母国の生活習慣、衣食住、学校生活などを、写真や国旗、民芸品、民族衣装などを使って紹介します。母国の料理を紹介して、一緒に作ることもあります。派遣先の多くは、小学校、中学校、高等学校です。子どもたちは、講師の国について事前に調べたり、講師の話聞いて疑問に思ったことをその場で質問したりして、その国について学びます。また、その国の子どもたちの遊びや歌、ダンスなどを教えてもらい、一緒に体を動かしたりもします。子どもたちにとって、実際に外国の方からその国の話を聞くことができるのは、貴重な機会です。一方で、子どもたちから講師へ、学校の様子や日本の文化を紹介することもあります。留学生にとっては、日本の学校を訪問し、子どもたちの学校生活を実際に見たり、一緒に給食を食べたりして触れ合うことは、貴重な経験です。ワールドキャラバンは、日本の子どもたちにとっても、留学生にとっても、貴重な機会となっています。

<参加者からのコメント>

ネランダ アザニア アユさん(インドネシア)/Nelanda Adzania Ayu

インドネシアの文化を紹介させていただいて、本当に感謝しています。小学3年生と触れ合うことは私にとって新たな経験で、貴重な経験になると思います。みんな元気いっぱい質問してくれましたし、すごくインドネシアのことに興味を持っているというオーラを感じています。驚くことは、みんなインドネシアのことをよく知っていることです。日本人の友達はインドネシアのことを全く知らない人がかなり多いので、感動しました。本当に楽しかったです。(ひたちなか市立長堀小学校派遣)

パンディ ヘンプロバさん(ネパール)/Pandey Hemprabha

私にとって、素晴らしい機会でした。この活動で私が目指しているのは、子どもたちに学んでもらうことはもちろん、それと同じくらい、楽しんでもらうことです。この子どもたちは歌うこと、踊ること、文化の違いを学ぶことをとても楽しんでくれました。体が不自由な子どもも、求めているものや望んでいることは他の子どもたちと同じなのだということを学びました。(鹿島特別支援学校派遣)